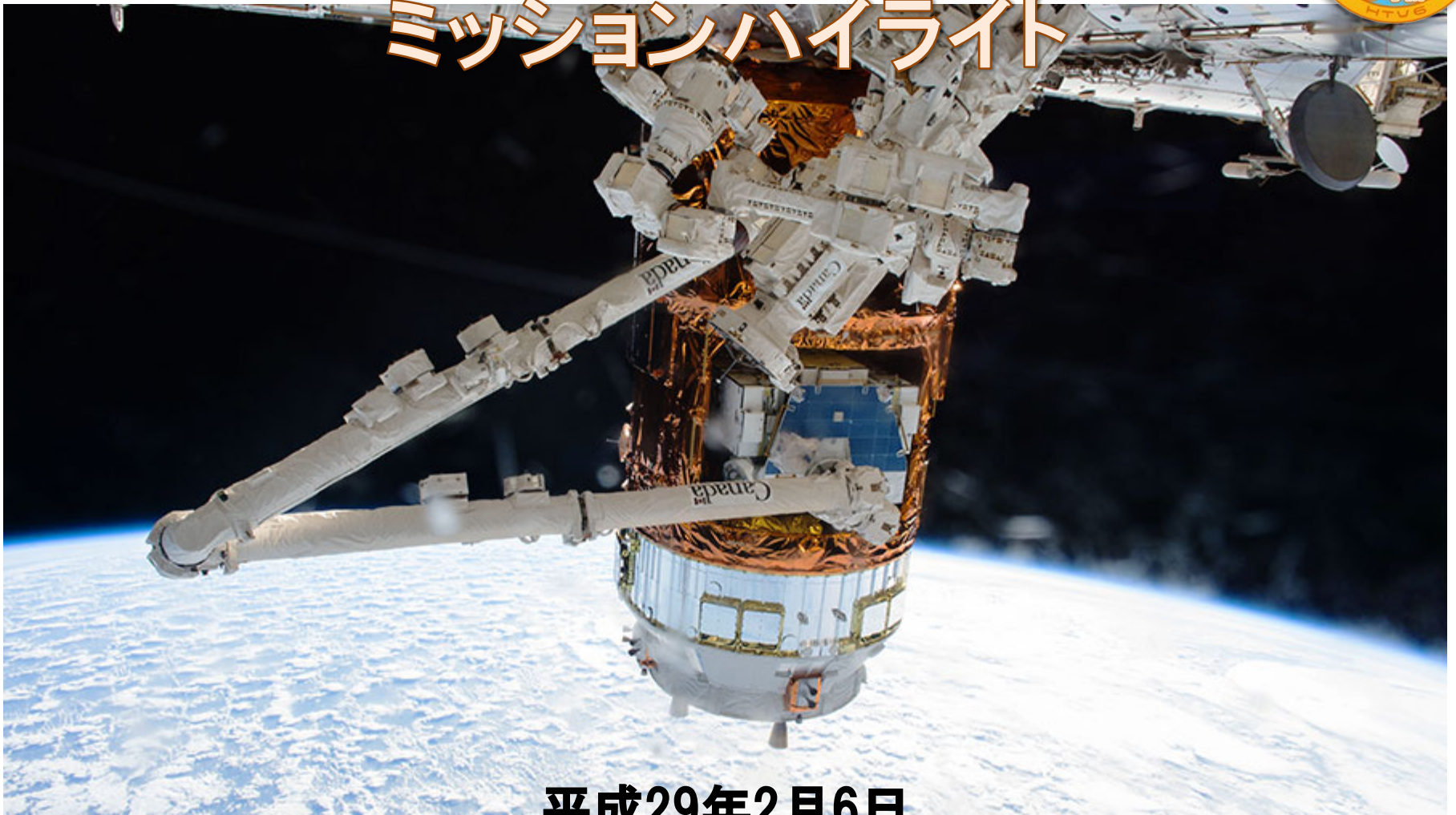




# 『こうのとりの』6号機

## ミッションハイライト



平成29年2月6日

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構  
HTV6担当フライトディレクタ 前田 真紀

2016年12月9日22時26分47秒（日本時間）

「こうのとり」6号機/H-IIBロケット6号機打上げ





2016年12月13日

ISSへ接近する「こうのとり」6号機



2016年12月14日3時24分（日本時間）

ISSロボットアーム（SSRMS）で把持





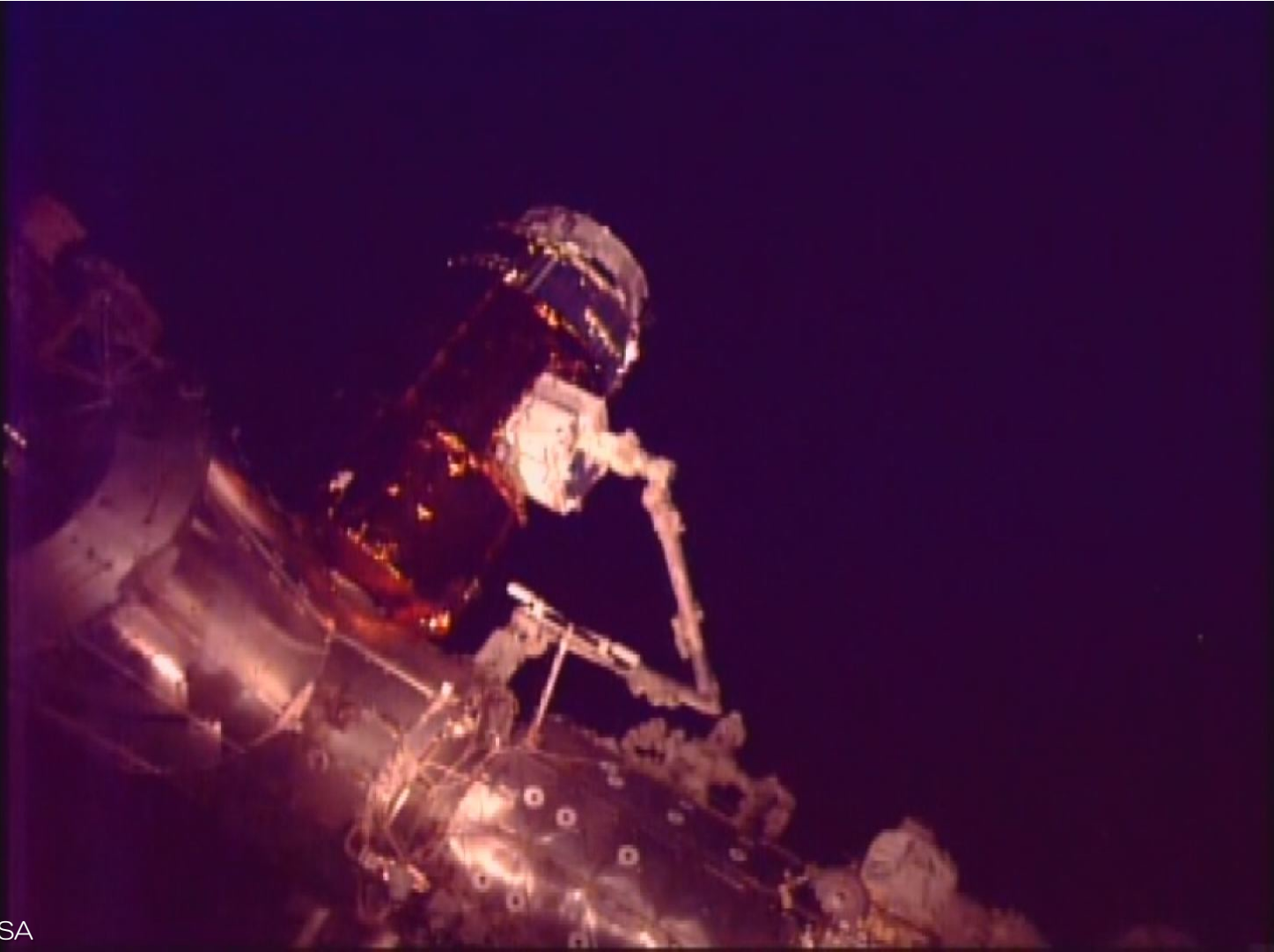
2016年12月14日3時24分（日本時間）

ISSロボットアーム（SSRMS）でISSに結合



2016年12月14日

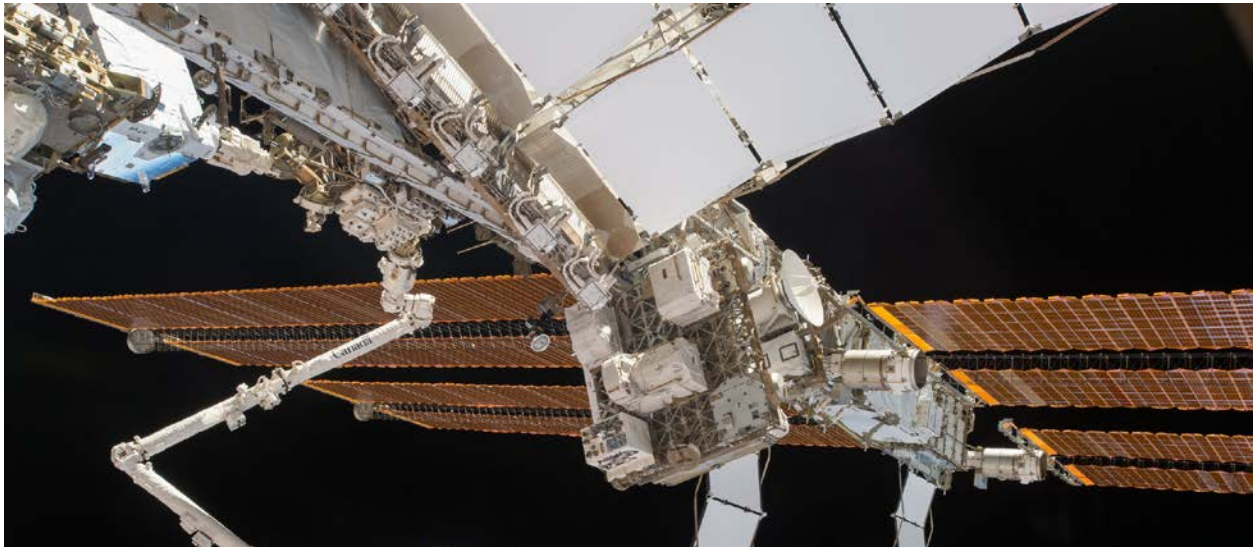
# ISS用新型バッテリーを搭載した曝露パレットの移設



(C) JAXA/NASA

2017年1月6日/13日 (日本時間)

日本製リチウムイオン電池を使用したISS用新型バッテリーの取り付け



(C) JAXA/NASA

(C) JAXA/Roscosmos



# 「こうのとりの」6号機でISSへ届けられた日本産生鮮食品





2017年1月27日 0時45分（日本時間）

ISSからの分離



# 運用管制室の様子



(C) JAXA



(C) JAXA



(C) JAXA



# ミッションを振り返って

## 未来へつながる「こうのとりのとり」6号機のミッションのポイント

### ○ ISS用新型バッテリーの輸送

2024年までのISS運用延長に不可欠である日本製リチウムイオン電池を使用した新型バッテリー輸送を初めて実施、無事成功させた。

この輸送にあたっては、輸送だけでなく取付船外活動を考慮した曝露パレットの改良を実施。

### ○ 「きぼう」利用拡大

従来の2倍に能力を増強した小型衛星放出機構（J-SSOD）や超小型衛星7機（2016年12月に1機/2017年1月に6機、全機放出成功）などを輸送し、「きぼう」利用拡大へ貢献。

### ○ 技術・経験の蓄積

バッテリー輸送を始めとする、新規要素技術実証の運用などを通じて新たな技術・経験を蓄積。今後の補給機開発・運用へ活用。



「こうのとりのとり」7号機～9号機では、引き続きISSのバッテリーを運ぶ重要なミッションや実証実験が控える。全機成功の「こうのとりのとり」が、ISS運用や将来の宇宙開発へつながる、なくてはならない役割を果たしていく。